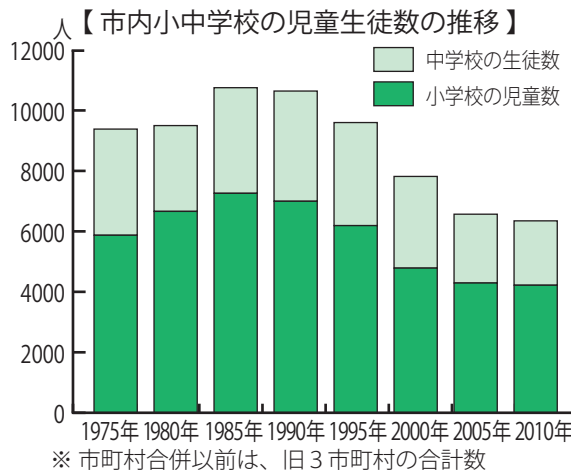


## 小中学校の再編整備 ①

2005年に初めて人口が減少に転じた日本は、今後この傾向が続き、毎年静岡市の人口とほぼ同じ74万人が減り続けることが見込まれています。戦後につくられたさまざまな制度や仕組みは、人口は増えるものとしてきたものであっただけに、大きく見直しを迫られています。

全国的な傾向と同様に大田原市も例外ではなく、市内小中学校の児童生徒数は、ピーク時の1万1009人(昭和63年)1987年・旧3市町村の合計数)から6272人(平成23年4月13日現在)にまで減少しており、学校の運営にさまざまな問題が生じています。



今後この傾向が続くことが予想される中、子どもたちの教育環境という視点から、これからの学校のあり方について市民の皆様とともに考えていくことにします。

第1回は、検討を始めることになったきっかけについてお知らせします。

### 大田原市小中学校適正配置検討委員会

平成21年7月に小中学校の適正規模・適正配置に係る基本的な考え方と具体的な方策について検討するため、「大田原市小中学校適正配置検討委員会」(※)を設置し、今年3月に提言書が提出されました。

その内容は、一定規模の集団の中で学び生活していくことにより教育的效果が高められること、円滑な学校運営を行うためにはある程度の規模が必要であることなどが示され、複式学級を有する過小規模校の統廃合と大規模校の通学区域の変更が具体的な方策として提言されています。

#### ※ 大田原市小中学校適正配置検討委員会

宇都宮大学教育学部長、元校長、大田原市私立幼稚園連合会長、小中学校PTA会長5名、区長連絡協議会長他3名、大田原市教育会長他5名、女性団体連絡協議会長、民生児童委員協議会委員の計20名で組織されました。

### 教育委員会の対応

この提言の大きな柱である複式学級を有する「過小規模校」の統廃合について、まず検討を始めたところです。

また、市内には複式学級を置く小学校もあれば、児童数が1000名を超える小学校もありますが、市内全小学校23校のうち19校は「過小規模校」または「小規模校」であり、9校ある中学校についても7校が「過小規模校」または「小規模校」であることから、小中学校全32校を対象とした再編整備を考える検討委員会の設置を計画しています。

※文部科学省は、小中学校共通で学級数による学校規模を分類しています。学級数が1〜5を「過小規模校」、6〜11を「小規模校」、12〜18を「適正規模校」などとしていて、学級数が30ある西原小は「大規模校」に分類されています。

次回は、保護者の皆様や関係地区の自治会長の皆様のアンケートから、学校再編の課題などを考えてみることにします。

### 小中学校の再編整備を検討する委員を募集します

教育委員会では、市内の小中学校の再編整備を検討する委員会を設置

します。この委員会は、小中学校および幼稚園・保育園の保護者の代表者、自治会長、教育関係者などで組織する予定ですが、委員のうち2名を公募します。

未来の子どもたちのために、また将来の大田原市の小中学校のあり方について、建設的な意見を述べたいとお考えの方は、次によりご応募ください。

#### ● 資格

応募の時点で、大田原市内に在住する20歳以上の方で、市議会議員、市職員でない方

#### ● 申込方法

氏名、住所、年齢、性別、電話番号を明記し、応募の動機を2000字程度に記入した「応募用紙」様式は定めません。を、郵送、FAX、電子メールのいずれかで教育総務課にお送りください。

#### ● 締切日

10月31日(月) 必着

#### ● 選考

6名の教育委員で選考します。結果については全応募者に通知します。

#### ■ 応募先・問い合わせ

大田原市教育委員会事務局  
教育総務課学校再編整備担当

〒324-0492  
大田原市湯津上5-1081

TEL (98) 7111  
FAX (98) 7122

☐ soumu-kyouiku@city.ohkawara.tochigi.jp